

研究

年少者日本語力診断テストの開発
—教員の視点からの SPOT と漢字テストに対する妥当性の検証—

酒井たか子 加納千恵子・小林典子 (筑波大学)

小・中学生の日本語支援が必要な子供たちの学習場面で必要とされる学習言語能力を測定するための簡易で客観的なテストの開発研究を進めている。日本語力(国語)に関しては、年少者用 SPOT (3種類)、漢字テスト、漢字 SPOT を作成し試行を行ってきた(酒井 2013、2016 他)。SPOT (Simple Performance-Oriented Test) は、問題文のひらがな一文字の () に同じ問題文を聞きながら穴埋め書き取りをする形式のテストであり、これまでは成人日本語学習者を対象に実施してきたものであった(小林 2014、Kobayashi 2016) が、この形式を年少者にも利用できるかを検証するために、年少者を対象にした内容としている。

2017年5月に日本国内の公立小学校において全校生徒約600名を対象に SPOT (YB)、SPOT (YC) および漢字テストを実施した。さらに児童にはテスト直後に、教員20名にはテスト結果を出した後にアンケート調査を行った。今回発表する教員に対するアンケート調査では、各児童の得点を示して、テストは何を測っているか、どのような能力と関係が強いのか、テスト結果が児童の能力を反映しているか、テスト結果に影響を与える要因は何かなど、自由記述による回答を求めた。

得点の低い児童の中には、家庭での言語環境や海外からの転入などの要因の他、多動的、慎重な性格などが反映しているという回答もあった。全体的には、「妥当だと思った」「納得した」「よくできていると思った」「児童の日本語能力がどの程度なのか知ることができて良かった」などの回答が見られた。漢字テストと SPOT のテスト間で差が大きい児童の特性についても検討を行った。

【引用文献】

- Kobayashi, Noriko (2016) Japanese language proficiency assessment with the Simple Performance-Oriented Test (SPOT) as a primary focus. In Masahiko Minami (ed.), *Handbook of Japanese Applied Linguistics*. (Handbooks of Japanese Language and Linguistics 10 NINJAL) pp. 175-198. Berlin/Boston. De Gruyter Mouton.
- 小林典子 (2014) 「SPOT について」『日本語学』10月号、vol. 33-12. 明治書院. pp. 42-51
- 酒井たか子・河野あかね・小林典子 (2015) 「年少者用 SPOT の開発—問題作成とインターナショナルスクールにおける試行—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』30号. pp. 21-33
- 酒井たか子 (2015) 「日本語支援の必要な児童・生徒に対する年少者用 SPOT の開発—日本語母語話者への実施結果から見えてくること—」. 『2015年度日本語教育学会秋季大会 予稿集』. pp. 381-382
- 酒井たか子・清水秀子. 2016. 「多言語背景の年少者用漢字テストの作成」『JSL 漢字学習研究会誌』第8号. 63-68